

# cue

10



特集

## 木に生かされる

インタビュー

建築家・プロダクトデザイナー 黒川雅之氏  
朝日銘木株式会社 常務取締役 永見義広



床の記憶  
MESSAGE FROM FLOORS.

50

# 木に生かされる

日本は木の文化の国と言われるよう  
に、日本人にとつて木は特別な存在です。  
日本人には生きている樹木をみて感じる  
信仰心があります。おそらく、皆さんも神  
社やお寺のご神木など大きな樹を前にし  
た際、放たれる大きなパワーを感じ、崇敬  
の念を持った経験をお持ちだと思います。  
そして、日本には切り出された木材に  
対しても、その形状や材面の美しさを  
「銘木」として愛する文化があります。  
「銘木」は木の国、日本の美意識が生み  
出した概念であり、私たち日本人が木に  
対して持つ愛着の深さと感受性の鋭さ  
は、他の民族とは比較にならないほど強  
いものがあるようです。

では、日本人にとつて木はどのような存  
在なのでしょうか、そして、なぜ、人は天  
然木、本物の木に惹かれるのでしょうか。

今回は「木」をテーマに、日本の文化や  
素材に深い造詣をお持ちの建築家・デザイ  
ナーの黒川雅之氏と、弊社の資材調達部門  
である朝日銘木の常務取締役、永見義広の  
お二人に、話を伺いました。

(文／取材・西村)





建築家・プロダクトデザイナー  
黒川雅之氏インタビュー

あらゆる建築材料、  
素材の中で「木」だけが  
特殊な存在です。

当社70周年イベントのウェビナーにもご登壇いただき、「木と床」についてお話し頂きました黒川雅之氏にあらためて、日本人にとっての木、本物の木の魅力についてお話しを伺いました。

日本人にとって木は「神」だった

そもそも木は日本人にとって、「魂」「神」が宿っていると考えられていました。「自然」という言葉は一九世紀になってからできた日本語で、それまで自然是、魂、神々という形で捉えられており、その典型的なものが木、樹木だったのです。

だから、かつての棟梁たちは、その樹木一本一本を神のように信仰しながら切り出して、その木のあるがままに上手に配置して家を作り上げていました。一本一本の柱に、神に対するのと同じくらいの思いが込められていたといえます。

なぜ、人は木を「いいな」と愛できるのか。それは、無意識のなかに木への深い思いが潜んでいるからです。そもそも、光合成をして酸素を生み出し、二酸化炭素を吸収する植物、木は動物にとってなくてはならない存在。植物がなくなった世界を想像できるでしょうか。日頃意識していないが、「木」は偉大な存在であること人類はもつと意識しなくてはいけません。木を生かすと表現することがありますが、私たちが木に生かされているのです。

人は無意識に「木」がなくてはならないものであることを知っています。他の素材、例えばそこに石がある、鉄があるなどというのと全然わけ

黒川雅之 Masayuki Kurokawa  
建築家・プロダクトデザイナー

1937年名古屋市生まれ。61年名古屋工業大学建築学科卒業。67年早稲田大学大学院理工学研究科建築工学博士課程修了。同年、黒川雅之建築設計事務所/株式会社K&K(2012年改称)設立。株式会社デザイントップ代表取締役。物学研究会代表。2010年に金沢美術芸術大学にて芸術博士取得。プロダクト・インテリア・建築にとどまらず文筆家としても活躍中。



が違う。人は、生きている植物と人間との深い関わりのなかで木を見ている、人と木とは魂で繋がっているのです。

## 木という素材だけが「氣」を発している

中国の長い歴史の中で「氣」というものが語られてきました。目に見えない生命の力のようなもの。英語で一番近いと思うのがエナジー。あらゆる建築材料、素材があるなかで、もともと生きていた「木」だけがこの「氣」を発しています。つまり、ほかの素材との違いは生命、宇宙をめぐっている命の循環が発する「氣」。

「氣」というのは日本の文化にもすごく深く影響を与えていて、気分がいい、天気、気が大きい、気づかないね、など辞書を引くとものすごい数の言葉があります。それほどに気を大事にしている。そして、この気をどこで受け止めているかというと、仮説ですが結論として「皮膚」をめぐっている命の循環が発する「氣」。

## 氣を感じるのは皮膚。 そして日本は皮膚の文化

皮膚というのは脳が出来る前から生き物にあるもので、原始脳と呼ばれます。皮膚が変化するために外注先として作ったのが脳。

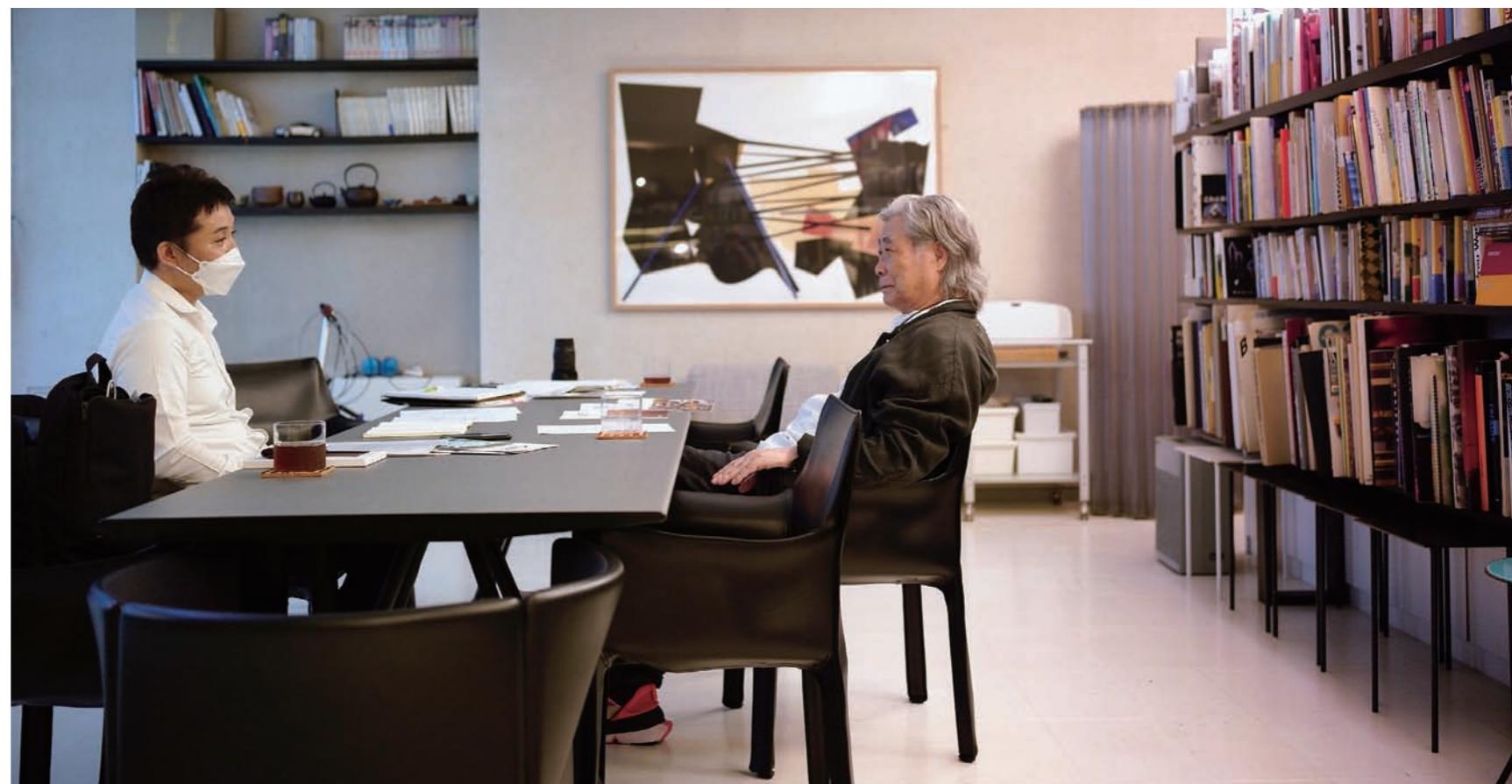
あいつは感じいいとか、あいつ嫌いとか、皮膚で感じている。わざわざ脳で考えてないですよね。気づく。皮膚感覚みたいなものです。皮膚の学問は非常に進んでいて、時差を感じたり、音も聞いています。腸が第二の脳と言われることがあります。粘膜も内側にある皮膚です。つまり、腸を含む皮膚に考える能力があり、気を受け止めているわけです。

東洋人、とりわけ日本人は皮膚感覚が非常に発達しています。季節風と偏西風によつて、日本にはアジアの湿度が全部流れ込みます。おかげで発酵食品が何千種類もある。発酵食品は中国にもあります。日本はこの湿度の高さが肌を発酵させるように素晴らしい肌感覚を育てるのではないか、そして、これが気を感じる能力を高めていると考えています。

## 住まいの床は本物の木がいい



日本の大工はカンナを挽くとき、柔らかいところ、節のような硬いところを微妙な感覚で手と木がお話しするようにすーっと挽く。友人が大工に弟子入りしたとき、手をたたかれたそうだ。「お前の手には脳みそがないのか、手で考えろ!」大工は手の皮膚で考えながら材料と会話している。



かで木はどのように重要なか、というのは、世界のなかでと考へればいい。そう考へると、私の中では住まいに木がないというのは考へられないこと。

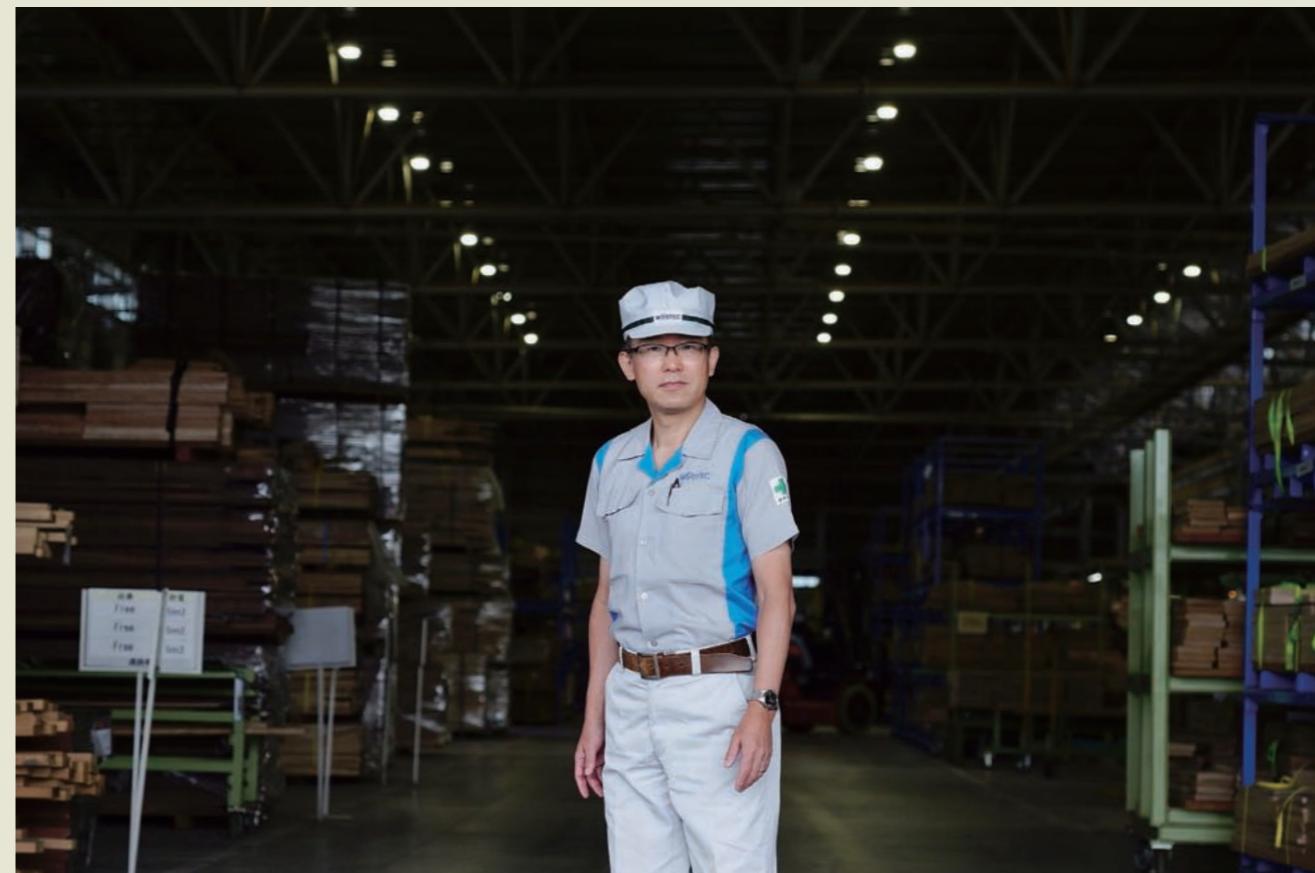
そして、住宅のなかで人がいつも触れているのが床なので、床が一番大事です。床からエネルギーが皮膚を通じて直接身体に伝わってきます。その感触すべてが本物であるべきです。本物の木の上で寝るといい夢を見ますよ。私の寝室には竹のフローリングが張ってあります。なんか、力をもらえそうな気がした。毎日、竹の気を頂いて寝ています。

また、現代建築がなぜ汚れやすいのか。それは現代の建築素材が自然に呼応しないからです。自然素材は自然に呼応することで自然と馴染み、美しく風化し、老化し、自然に還ります。日本人が愛した自然素材の家は完成したときが一番ではありません。新築の喜びと新しく出発する喜びはあっても決してその美しさに満足していませんでした。経年で変化していくことを楽しみ、そこに美しさと価値を感じていたのです。桜は散るから美しい、人も死ぬから美しい。家も木の床もそれと同じように経年で味わいを増す素材がいいですね。

床からエネルギーが  
皮膚を通じて直接  
身体に伝わってきます。  
その感触すべてが  
本物であるべきです。



# 木の経験を増やして 森へつなげる



永見義広 Yoshihiro Nagami  
朝日銘木株式会社 常務取締役

1964年大阪市生まれ。京都工芸繊維大学卒業後、1987年入社。朝日銘木、朝日ウッドテック開発部、生産技術部、商品部を経て、現在は李匠の後継者として調達から朝日銘木のものづくりまで全体のマネジメントに携わる。商品部在籍時にライブナチュラルプレミアムを開発。

## 永見義広インタビュー

朝日銘木株式会社 常務取締役

### 環境によいもの 暮らしへ役立つもの 心癒すもの

私が考える木の良さは3つあると思っています。ひとつは環境に良いということです。二酸化炭素を吸収して酸素を作り、しかも再生可能という、これほど機能を持った素材は他にありません。また、環境に良い素晴らしい素材にも関わらず、近くの公園や山にいけば普通に生えている、すごく身近な存在でもあります。

次に暮らしへ役立つものであるということ。

構造材や合板、造作材、床などの建材、家具、また紙類、器やお箸、樽など食の場面でも関わりが大きく、最近ではバイオマス燃料など。どれをとっても暮らしへ役立つ、我々の生活とは切つても切れない存在で、木が生活のなかで大活躍しています。

3つ目は心を癒すもの。木のイメージを聞くと落ち着くとかリラックスすると答える方が多いですが、ここにはもちろん1/fの揺らぎ<sup>(\*)1</sup>や材色のばらつき、温かみのある色味など物理

的なエビデンスもありますが、どちらかといふとおそらく過去からの時間軸の中で木つていよいよ、と思った経験、原体験みたいなものが人の記憶に刷り込まれているという心理的なものがあると思っています。やっぱり木つていよいよ、と表現することが多いことを考へると、この“やっぱり”には、過去から積み上げてきた良い経験があるからだろう、そう考へると、本物の木に触れる経験が減ってきた今の時代は、だんだん木の良さが伝わりにくくなっているのかもしれません。

### 大切に使うことと 美しく見せること

木を扱う上で心がけていることは、ひとつが大切に使うことです。粗末に扱うと罰が当たる」と会社に入つてから諸先輩方に刷り込まれました。扱う材料は使いやすい材料だけではありません。細いもの、曲がっているものもあります。長いものから短いもの、幅の広いものから狭いもの、色の黒いものから白いもの、欠点の

(\*)1 1/fの揺らぎ  
人の心拍の間隔や、ろうそくの炎、小川のせせらぎなど、自然現象で規則正しさと不規則さがちょうどよいバランスで調和したパターン=“心地よいと感じる自然のリズム、のこと

あるものないものと、素材が持つているばかり  
きをうまく使い切ることが重要です。

当社の商品や技術は、材料を大事に使うには  
どうすればいいか、という発想から生まれてい  
るものが多くあります。

60年前、日本で初めて開発した合板基材フロ  
アの化粧材デザインも、当時主力であった壁材  
の生産時に出てきた端材活用から生まれてい  
たり、かつて当社の特許であった突き板を作る  
ための積層技術<sup>(\*)2</sup>や、天然木のキャラクター  
を活かしたライブナチュラルといった床材商  
品もそうです。

もう一つはデザインとしてきれいなものを  
作りたい、ということです。これは銘木商時代  
から受け継がれた当社のDNAかもしれません  
。たとえば“材色をばらつかせる”というこ  
とでは、自然界にある樹木と同じばらつきを製  
品にも持たせることで自然と心地良いものに  
なるはずだと考えており、樹種ごとに材色の全  
体分布を機械で数値を測って、濃中淡等、いく  
つかに区分してフローリングのデザインに落  
とし込むという、ことをしています。他にも節  
の大きさや個数なども細かく決めているなど、  
意匠性にこだわったモノづくりをしています。  
「材料を使い切ること」、ある意味それに相反  
する、「意匠へのこだわり」の二つを両立させる  
ことがすぐ大事だと思っています。

## 木で幸せを感じる瞬間は 家だけではない

木を感じる経験を増やしていくことが、より  
木の良さを感じられるようになるために大切  
なことだと考えているので、次の世代の人た  
めにも本物の木を使う場面を出来るだけ増や  
すことが大事だと思っています。なぜなら、よ  
り多くの人が木の良さを感じて、木をたくさん  
使い、そして育てることが、森の豊かさに必ず  
繋がっているからです。

私たちは自然の恵みを森からたくさん得  
ています。とくに広葉樹にはいろんな実がな  
り、それを食べる小動物が生きて、それを大  
きな動物が食べてという、生物多様性にもつ  
ながります。春には花が咲き秋には紅葉す  
る、休みの日にそういう広葉樹の森の風景を  
見ることでほっとするのが幸せを感じる瞬  
間でもあります。

そういう広い意味での「暮らし」を考えると  
住まいに木を使うことは住まい手に安心感を  
与えるとともに、森を持続的にしていくことに  
繋がります。木が知らないうちに私たちの暮ら  
し全体を豊かにしているということを多くの  
人に知つてほしいと思っています。

(\*)2 積層技術  
あらかじめ1×6尺のサイズに板子を組  
み上げた積層フリットを作り、それをス  
ライサーで突いて単板を作る技術。



## 木を育て、木を使い、木と暮らす

朝日ウッドテックでは、天然木を扱うメーカーとして、木に関わるすべての人人が持続可能な生き方を達成できるように努めています。例えば、フローリングや壁材などの材料を持続可能な森から調達、節や白太をデザインとして取り入れたり、小径木を活用し木を余すところなく使う商品開発に取り組んでいます。また、商品に抗ウイルスや抗菌の性能を付与し、お客様に衛生的な暮らしをお届けします。今後も、天然木にこだわりSDGs思想で歩んでいきます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



抗ウイルス・抗菌性能のような、床の上で暮らす人が衛生的で快適に過ごせる床を提供しています。



冊子やwebサイト、ショールームを通じて、より多くの人が木の魅力に触れられる活動をしています。



「木」を深く知ることで、「木」の可能性を最大限に引き出せるようになるために技術開発に取り組んでいます。



床の上で暮らす人が安心して床の上で暮らし続けられるように、高品質で長持ちする床を提供しています。



今まで使われていなかった木の活用や、床を製造する時に発生する不良品の削減に取り組んでいます。



気候変動の影響を緩和するため、サプライチェーン全体で温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。



今後も木を使い続けられるように、調達方針を決め、持続可能な管理をしている森から材料を調達しています。



官公庁や民間団体と連携して、木を使い、木を育て、未来へつながる活動に取り組んでいます。



## 世界の床を 訪れる2

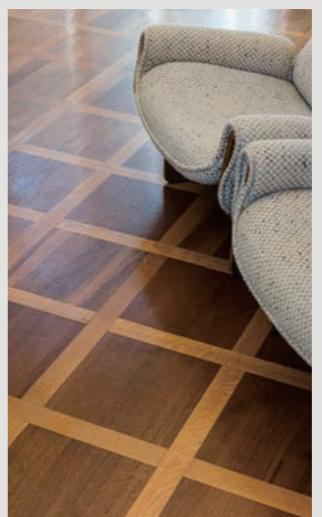
ITALY



世界を知ることで見えてくる日本の床のあるべき姿があるのではないか。ということから、世界の床を探求するプロジェクトが発足し、3年前にヨーロッパへ行きました。ヨーロッパは石の文化で石材やタイルが多いイメージがありますが、実際は床に木を使うことは決して少なくありません。前号のデンマークの住宅の床につづき、今回はイタリアの3邸の床を3つ紹介します。



ボルサーニ邸を案内してくれた、ミラノ工科大学のジャンピエロ・ポゾーニ教授と世界の床を探求するプロジェクトメンバー。

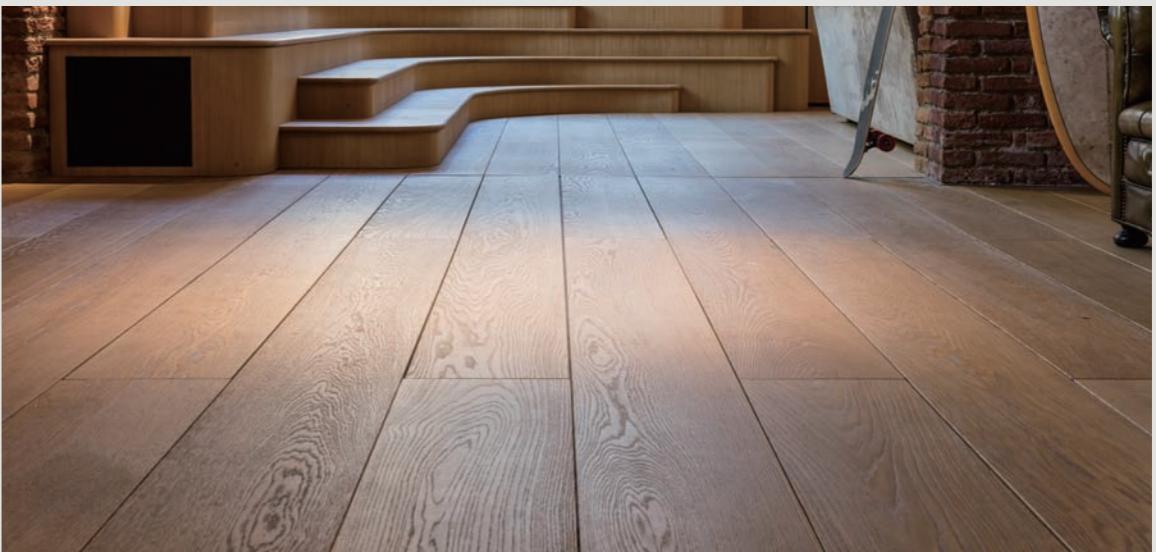


### ボルサーニ邸

まず1邸目は、イタリアの家具メーカーtecno社創業者の一人である、オズヴァルド・ボルサーニの邸宅。ミラノ郊外にあるこの邸宅はボルサーニ自身が設計したもので、内装はボルサーニがデザインした家具、親交のあった芸術家の作品などが置かれた豪華なものでした。

床は、部屋によつて張り分けられていますが、サロン（応接室）と書斎の床には、ウォルナットとオークを組み合わせた幾何学模様のパーケットフローリングが張られていました。非常に主張が強いデザインですが、うまくインテリアとバランスが取れているのは流石です。経年による色変化で色気が増した上質な空間でした。





### パスピオ通りの家

ミラノのパスピオ通りに、とあるイタリアのファッショングランドオーナー一族が住む家は、もともと十八世紀末の工場を改修した建物です。もと倉庫らしく、壁はアンティークな赤茶色のレンガで、床には広幅長尺のオークの無垢材が張られていました。床に使うオーク材は、3ヶ月間乾燥させて、北イタリアの家具の名産地であるブリアンツア地方で揃えたという、「一つとして節のない超二級品。木目は非常に緻密で上品な表情をしています。幅は2800mm、長さは3300mm」と圧倒的なスケールで、日本の住宅では、なかなかお目にかかれ代物でした。



## ピア邸



最後はヴェネチア近郊の邸宅です。ヴェネチアはイタリアの木質フローリングメーカーの集積地。その1社であるイデアルレニヨ社が施工も手掛けたのがピア邸です。ピア邸の1階は白い人工大理石、2階にウォルナットのフローリングが張られていました。1階と2階をつなぐ階段も同じウォルナットのフローリングが使われていました。イタリアンウォルナットなのでアメリカ産のブラックウォルナットに比べると、薄く優しい色目をしています。表面のテクスチャーは手斧仕上げのような凹凸加工が施されており、イタリアでも人気のテクスチャの一つ。欧米のお宅で靴を脱ぐのは失礼になるため、体验できなかつたのですが、素足で歩けばきっと気持ちいいだろうと思いました。





## LONG LIFE DESIGN AWARD

LiveNaturalプレミアムが「ロングライフデザイン賞2022」を受賞  
ロングライフデザイン賞はグッドデザイン賞の1部門であり、長年にわたりスタンダードであり続ける力を持ったデザインを顕彰する賞で、今回の受賞はフローリングとしてグッドデザイン史上初の受賞となりました。これからもプレミアムをよろしくお願ひいたします。

### 編集後記



先日、金沢へ旅行に行ってきました。レンタサイクルで市内を移動したのですが、街の景観や自然が本当に綺麗で、とてもリフレッシュできました！特に、金沢城の周りが緑豊かで気持ちよかったです。今回は新緑の季節だったのですが、その他の季節にもぜひ訪れてみたいと思います。（山野）



今回ご紹介させて頂いたスティングレイベースの愛用者であるルイス・ジョンソンは、ポール・マッカートニー等数多くのミュージシャンのレコーディングへ参加しています。の中でも特に有名なのがマイケル・ジャクソンとの共演です。1979年発売の「オフ・ザ・ウォール」や史上最も売れたとされる1984年に発売された「スリラー」ではスティングレイベースによるパワフルでグループ感に溢れたプレイを聴く事が出来ます。（相原）



数年ぶりに北海道に行ってきました。車で走っていると、普段見られない壮大な景色に圧倒されました、北海道に行くとやっぱり食べることがメインになってしまいます。海鮮や、色々な牧場のソフトクリームを満喫しました。北海道は見どころが多いので、また訪れてみたいと思う場所です。（大西）



先日、1歳3ヶ月になる息子を連れて神戸アンパンマンミュージアムに行ってきました。最近、「トップガン マーヴェリック」や「キングダム2」等々、面白そうな映画がたくさん公開されており観に行きたいのですが、1歳児を連れては難しく。。お出かけはしばらくお子様向けスポットばかりになりそうです。（西村）

発行日 2022年10月07日  
編集長 西村公孝  
デザイン 鈴木信輔(ボルド)  
イラスト 鈴木志穂 [P13]  
発行 朝日ウッドテック株式会社

# cue

10

【cue(キュー) = 手掛けり、きっかけ】

## 「ジャズベース」「プレシジョンベース」と並び称される名器

### レオ・フェンダーが手掛けたベースギター

ギブソン社と並んで世界の大手楽器メーカーであるフェンダー社は1950年にレオ・フェンダーによって設立されました。その後レオ・フェンダーは自身の健康問題で1965年にフェンダー社を売却。一度は第一線から身を引きましたが、「技術者として新しい製品を開発したい」と、1972年に新たにミュージックマン社を創業しました。その新しいブランドから1976年に発売されたのが「スティングレイベース」です。

### 更なる進化

フェンダー社のベースと「スティングレイベース」の大きな違いはピックアップ(弦の振動を拾って電気信号に変えケーブルを通してアンプから音を出す仕組み)にあります。フェンダー社時代の、木の鳴りをダイレクトにアンプへ伝えるパッシブタイプに対し、ミュージックマン社のギターには、木の鳴りをコントロールしてアンプへ伝えるアクティブタイプのピックアップが搭載されました。

今では当たり前のアクティブタイプですが、パッシブタイプが主流だった当時、このアクティブタイプのサウンドは大きな衝撃を与えました。パッシブ、アクティブタイプはそれぞれに良さがありますが、パッシブは暖かみのある木の鳴りを重視する人、アクティブはクリーンでパワフルな音色を好む人に人気があると言われています。

### スティングレイに使われている木材

ネックにはメープル、指板にはローズウッド・メープルのいずれか、また、ボディにはアッシュ材が使われています。

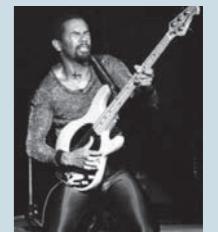
ギターのボディ材として使われているアッシュには、ホワイトアッシュとスワンプアッシュの2種類があります。ホワイトアッシュは比重が高く重たい材で、低域と高域をしっかりと出す事が出来ます。スワンプアッシュは、ホワイトアッシュと比べると重量が軽く、ライトアッシュとも呼ばれています。高域はしっかり出ますが、低域に弱く、中域に優れています。スティングレイに使われているのは、このスワンプアッシュです。

### スティングレイの愛用者

中域に優れた音質に加えて幅広い音作りが可能なスティングレイは、タイトなベースサウンドが特徴のベーシストに好まれています。

その代表がルイス・ジョンソンです。彼のスラップ奏法によるファンキーなサウンドはスティングレイ無しではあり得なかつたでしょう。他にもジョン・ディーコン(クイーン)等、数多くの愛用者がいます。

その後、ミュージックマン社はギター弦の会社であるアニーボール社に買収されてしまいました。レオ・フェンダーは1991年にパーキンソン病で死去。「世界中のアーティストにしてやれる事は全てやった。」と言ひ遺し、1992年にロックの殿堂入りを果たしています。（文・相原）



ルイス・ジョンソン  
(Wikipediaより)